



明治22年(1889)の高潮災害を伝える
慈眼寺の海嘯記念碑(東海市)



昭和19年(1944)昭和東南海地震のあと、光照院
に納められた常滑焼のおぼなる観音(半田市)



じわれん



じわれん

歴史地震記録に学ぶ 防災・減災ガイド 知多編

先人たちが伝えようとしたことに、
耳を傾けてみんかのお



げんさい
減斎さん

雁宿公園にある、昭和19年(1944)昭和東南海地震の慰霊碑(半田市)



殉難学徒之像

追憶之碑

平和祈念碑



地震や波浪など数度の災害を受け
社殿を移転している内宮御祭宮社(常滑市)



日間賀島が「タコの島」と呼ばれる由来となった、
章魚(たこ)阿弥陀如来がご本尊の安楽寺(南知多町)



つなみん



つなみん

No	東海市	碑史跡	エリア
1	東海町付近		B1
2	慈眼寺(海嘯記念碑)*	△	B1
3	東平井付近		B2
4	中川筋堤		B1
5	鹿持付近		B2

No	大府市	碑史跡	エリア
1	共長小学校		B1
2	横根後田付近		B1
3	神明社*		B1

No	知多市	碑史跡	エリア
1	北浜町付近		A1
2	岡田町付近		A2

No	阿久比町	碑史跡	エリア
1	草木小学校		B2
2	阿久比町付近		B2
3	南部小学校		B3
4	東部小学校		B2
5	板山(旧板山村)付近		B2

No	常滑市	碑史跡	エリア
1	内宮御祭宮社*		A2
2	光明寺		A2
3	三和小学校(旧三和村立国民学校)		A2

No	武豊町	碑史跡	エリア
1	富貴小学校*		B4
2	皆満寺		B3

No	美浜町	碑史跡	エリア
1	野間町付近		A4
2	河和町付近		B4
3	甘露寺*		B4

No	南知多町	碑史跡	エリア
1	内海(旧西端村)付近		A5
2	内海(旧中之郷村)付近		B5
3	宝積院*		B5
4	内海(旧北脇村)付近		B5
5	山海(旧久村)付近		B5
6	豊浜(旧須佐村)付近		B5
7	豊丘(旧乙方村)付近		B5
8	片名(旧片名村)付近		B5
9	島弘法*	△	C5
10	篠島		C5
11	日間賀島		C5
12	安楽寺(章魚(たこ)阿弥陀如来)*	○	C5

※：解説ページあり

- ：地震に関する碑・史跡
- ◎：地震・津波に関する碑・史跡
- △：高潮・波浪に関する碑・史跡

凡例	
○	地震・津波関係
●	碑・史跡 被害記録のみあり
●	宝永4年(1707)宝永地震
●	嘉永7年(1854)安政東海・南海地震
●	明治24年(1891)濃尾地震
●	昭和19年(1944)昭和東南海地震
●	昭和20年(1945)三河地震
●	その他(年代不明を含む)
◇	遺跡調査時に確認された地震痕跡(砂脈・噴砂)
▽	(断層)
*	(地割れ)
▲	高潮・波浪関係

東海市では、
建物被害、堤防の亀裂、噴砂のほか、高潮などによる
浸水被害の記録があります。



知多市では、
建物被害、堤防の亀裂、津波避難の記録があります。



No	東浦町	碑史跡	エリア
1	海印寺		B2
2	藤江神社		B2
3	村木神社		B2
4	越境寺		B2
5	開眼寺		B2
6	稻荷神社		B2
7	村木常夜灯跡*	○	B2
8	入海神社		B2
9	生路門田付近		B2
10	太郎兵衛新田南堤		B2
11	成実新田付近		B2

No	半田市	碑史跡	エリア
1	北谷墓地(殉職者諸精霊の碑)*	○	B3
2	常楽寺		B3
3	雁宿公園*		B3
3	(半田)戦災犠牲者追悼平和祈念碑・殉難学徒之像・追憶之碑	○	B3
4	半田小学校(旧半田第一国民学校)		B3
5	光照院(おほなみ観音像)*	○	B3
6	東洋町(旧山方新田)付近		B3
7	半田市役所(東南海地震の碑)*	○	B3
8	瑞穂町(旧康衛新田)付近		B3
9	新居町付近(旧乙川村の塩浜)		B3
10	東光寺		B3



- 東南海地震の碑
 - 雲心寺(震災弔魂碑)
- などもあります

東南海地震の碑は、南区にあります。
航空機製作所の工場において、昭和19年(1944)昭和東南海地震の際に犠牲となった方々を慰霊するために建立されたものです。
雲心寺(震災弔魂碑)は、熱田区にあります。
明治24年(1891)濃尾地震の際に、尾頭橋近くにあった紡績工場で被災した方々を弔うために建立されたものです。

常滑市では、
建物被害、津波被害、高潮被害の記録があります。



美浜町では、建物被害、地盤の亀裂・盛り上がりなどの記録があります。



南知多町では、建物被害、津波被害、地盤の亀裂・泥の吹き出し・盛り上がりなどの記録があります。



つなみん

災害を今に伝える史跡など 東海市、大府市、知多市、阿久比町、東浦町

東海市の被災状況

嘉永7年(1854)安政東海地震の際に加木屋村(現在の加木屋町)では、中川筋で堤の両側が1400間(一間は約1.8m)に亘って割れ、鹿持雨池では35間程、東平井雨池では15間程、平子雨池では35間程に亘って堤が割れています。また、家のひさしが落ちたり、塀などが倒れたりしています。

明治24年(1891)濃尾地震の際に横須賀町では、社寺の常夜灯や墓地の石塔が倒れたりしています。

「東海市史」には、昭和19年(1944)昭和東南海地震の際の東海市では、軟弱な地盤上に建てられた建物で被害が多く出たことが記載されています。

また、大田町蟹田内で行われた発掘調査では、江戸中期～近代の噴砂の跡も確認されています。

東海市では、このほか、暴風雨や高潮によっても堤防の決壊や浸水被害が出ています。



慈眼寺(海嘯記念碑)

所在地:東海市荒尾町峯脇
交通:名鉄常滑線「新日鉄前」より北東 約400m

海嘯(かいしょう)とは海嘯りのことで、地震による津波や高潮を指します。また、昔は高潮のことを「津浪」「津なみ」とも呼んでいました。この碑は津波ではありませんが、明治22年の高潮による被害を受けて建立された石碑です。この明治22年の高潮では、堤防の決壊、海水の侵入などにより、小舟等の漂着、浸水被害が発生しています。



知多市の被災状況

知多市では、嘉永7年(1854)安政東海地震の際の状況を地域に残された古文書から知ることができます。松原村(現在の日長)の庄屋の古文書からは、家々の瓦が下がり、ひさしや壁が落ち、傾いた家が夥しく、池の堤にも地割れがあったものの、大きな被害ではなく、倒れた家もなく、津波も打上は少なかったことが伺えます。一方、中嶋村(現在の八幡)の庄屋の古文書では、大家の蔵や光明寺の庫裡まわりが壊れ、大きな津波が来たために、浜手の者は山手に走り上がったことが書かれています。

「佐布里のあゆみ」には、明治24年(1891)の濃尾地震の際には、佐布里でも危険を避けるために小屋掛けして寝泊りしたこと、公共用溜池の堤の裂けた箇所を全部修理するための補助金を申請したことが記載されています。

「岡田町誌」には、昭和19年(1944)昭和東南海地震では、岡田町の被害状況としてわかっているだけでも、全壊住宅20戸、半壊住宅101戸、全壊工場4棟、半壊工場3棟の被害を受けたことが記載されています。

阿久比町の被災状況

「阿久比町誌」には、宝永4年(1707)の富士山の噴火と地震により、崖崩れで田が埋まったことや家が倒れたことなどが記載されています。

昭和19年(1944)の昭和東南海地震では、住居・非住居、工場・学校等で全壊・半壊が起こっています。草木小学校では、校庭に大きな地割れも発生しています。

昭和20年(1945)の三河地震では、住居の全壊・半壊が発生しています。

大府市の被災状況

大府市では、嘉永7年(1854)安政東海・南海地震の際の状況が吉川村の文書からうかがえます。この地震では、奥池・惣左上池・神池の堤防と用水路、巡見道、奥池下次新田、弥左池東などで31箇所の損壊がありました。

昭和19年(1944)昭和東南海地震では、横根後田内内の境川堤防が崩壊し、川をせき止め、大きな被害が出ています。このほかに、共長小学校の校庭や周辺の道路に地割れが起きたり、建物が倒れるなどの被害が出ています。

昭和20年(1945)の三河地震では、鳥居や常夜灯の倒壊も出ています。

神明社

所在地:大府市神田町
交通:名鉄名古屋本線「豊明」より南西 約1.7km

創建は明らかではありませんが、社蔵の棟札には、享保12年(1727)と寛政3年(1791)に社殿造営とあります。昭和20年(1945)の三河地震により、鳥居、常夜灯が倒壊し、昭和34年の伊勢湾台風により社殿及び社務所が倒壊しています。その後、氏子の方々の熱意により復興しています。



東浦町の被災状況

東浦町では、宝永4年(1707)宝永地震、嘉永7年(1854)安政東海・南海地震、明治24年(1891)濃尾地震、昭和19年(1944)昭和東南海地震、昭和20年(1945)三河地震などの被災の記録が残っています。

宝永4年(1707)の宝永地震では、緒川などの塩浜(塩田)が破壊されています。嘉永7年(1854)の安政東海・南海地震では、明徳寺川の堤防が決壊しています。

明治24年(1891)の濃尾地震では、建物被害や、師崎街道で4箇所193間(1間は約1.8m)の陥没があったほか、藤江地区で海岸入江の堤防が陥落、橋梁の破損などの被害がありました。石浜地区では、明徳寺川の堤防が陥落、豆搦川の堤防が戊新田・川尻・西平地・入海田などで陥落、朝日新田・天王・成美新田で海岸の堤防が陥落しています。生路と藤江では、広範囲に破裂・陥没・崩壊・隆起・土砂の噴出などが発生しています。

昭和19年(1944)の昭和東南海地震では、住居の全壊・半壊・破損が多数あったほか、開眼寺の山門が全壊し、入海神社拝殿・社務所、海印寺寺置、藤江国民学校(現在の藤江小学校)校舎、藤江神社・稲荷神社の社務所なども破壊しています。道徳小学校の児童が疎開していた越境寺も壊れ、太郎兵衛新田南の堤防も陥没しています。県道にも大きな亀裂が入っています。

昭和20年(1945)の三河地震では、建物の全壊・半壊のほか、地面に亀裂が発生しています。成美新田では地盤が沈下し、稲の植付けの後水浸しになり、収穫ができな状態になっています。

村木常夜灯跡

所在地:東浦町森岡前田
交通:JR武豊線「尾張森岡」より東 約400m

村木常夜灯は、旧津島神社(現在の村木神社)への献灯、村中安全、海の安全を願って、旧大洗街道沿いに建立されていましたが、昭和19年(1944)昭和東南海地震の際に倒壊しています。この跡地に、平成19年3月、史跡とするために常夜灯が再建されています。



災害を今に伝える史跡など 半田市

半田市の被災状況

半田市では、宝永4年(1707)宝永地震の際には、乙川の塩浜で被害を受けています。

嘉永7年(1854)安政東海・南海地震の際には、家屋の倒壊が多く、道路に亀裂が生じたほか、午ヶ池・古池が決壊しています。また、津波により下半田地区は浸水しています。

明治24年(1891)濃尾地震の際には、下半田地区・上半田地区に家の倒壊あり、鉄道の軌道は破壊・屈曲しています。東午ヶ池が決壊し、康衛新田の堤防も決壊しています。また、地盤に亀裂が生じ、噴泥も発生しています。

昭和19年(1944)昭和東南海地震の際には、建物の全壊・半壊が多数あり、各地に地割れも発生しています。阿久比川と半田港に囲まれた低湿

地では、噴砂・噴泥・噴水が発生しています。特に中島飛行機半田製作所の被害が大きく、多数の人命が失われています。中島飛行機本工場のあった乙川駅付近は、窪地を埋めて造成されたこととされており、地盤沈下などが発生しています。中島飛行機半田製作所で大きな被害となったのは、元禄時代に海を干拓した軟弱な地盤上に工場があったこと(山方工場)、既存の工場を軍用機の組み立て工場として転用するために壁や柱を取り払ったこと(山方工場、霞野工場)なども要因の一つとされています。

昭和20年(1945)三河地震の際にも、噴砂があり、家屋の全壊・半壊も多数ありました。



北谷墓地(殉職者諸精霊之碑)

所在地:半田市柘町
交通:知多バス岩滑線「知多自動車学校前」より南西 約200m

中島飛行機は、昭和19年(1944)昭和東南海地震により、作業中に一命を失われた従業員、応徴士、女子挺身隊、動員学徒などの霊を慰めるため、「震災殉難者之塔」(木製の柱)を建立しました。その後、昭和20年(1945)7月の空襲で犠牲になった方々が合祀されました。戦後は、富士産業株式会社半田工場、愛知富士産業株式会社、輸送機工業株式会社と引き継がれ、就業中の不慮の災害により殉職された従業員の方々も合わせてお祀りされてきました。その間、昭和30年(1955)に再建された「殉職者諸精霊之塔」も朽ちてきたので、昭和55年(1980)に改めて「殉職者諸精霊之碑」として石製の碑が建立されました。



半田市役所(東南海地震の碑)

所在地:半田市東洋町
交通:JR武豊線「半田」より東 約700m

この碑は、半田市役所の敷地内に建てられています。

正面には「東南海地震被災の地」、側面には「中島飛行機山方工場跡」、「一九四四・一二・七 学徒従業員など犠牲者一五三人」、背面には「半田・平和祈念碑建立実行委員会 一九九六・七設置」と刻まれています。



雁宿公園(半田・戦災犠牲者追悼平和祈念碑)

所在地:半田市雁宿町 交通:名鉄河和線「知多半田」より北西 約800m

この碑は、昭和19年(1944)昭和東南海地震の際の軍需工場での地震による犠牲者、昭和20年(1945)7月の空襲による犠牲者、動員中の労災死亡者、432人を追悼するために建てられたものです。戦時中の半田にゆかりのある動員体験者や市民の協力によって寄金がよせられ建てられました。平成7年7月に完成しています。

雁宿公園(殉難学徒之碑)

所在地:半田市雁宿町
交通:名鉄河和線「知多半田」より北西 約800m

この碑は、昭和19年(1944)昭和東南海地震で亡くなった中島飛行機半田製作所の動員学徒96人と山二航空成岩工場で亡くなった1名を追悼した像です(山二工場で亡くなった方は後で追加されました)。昭和34年(1959)に完成しています。

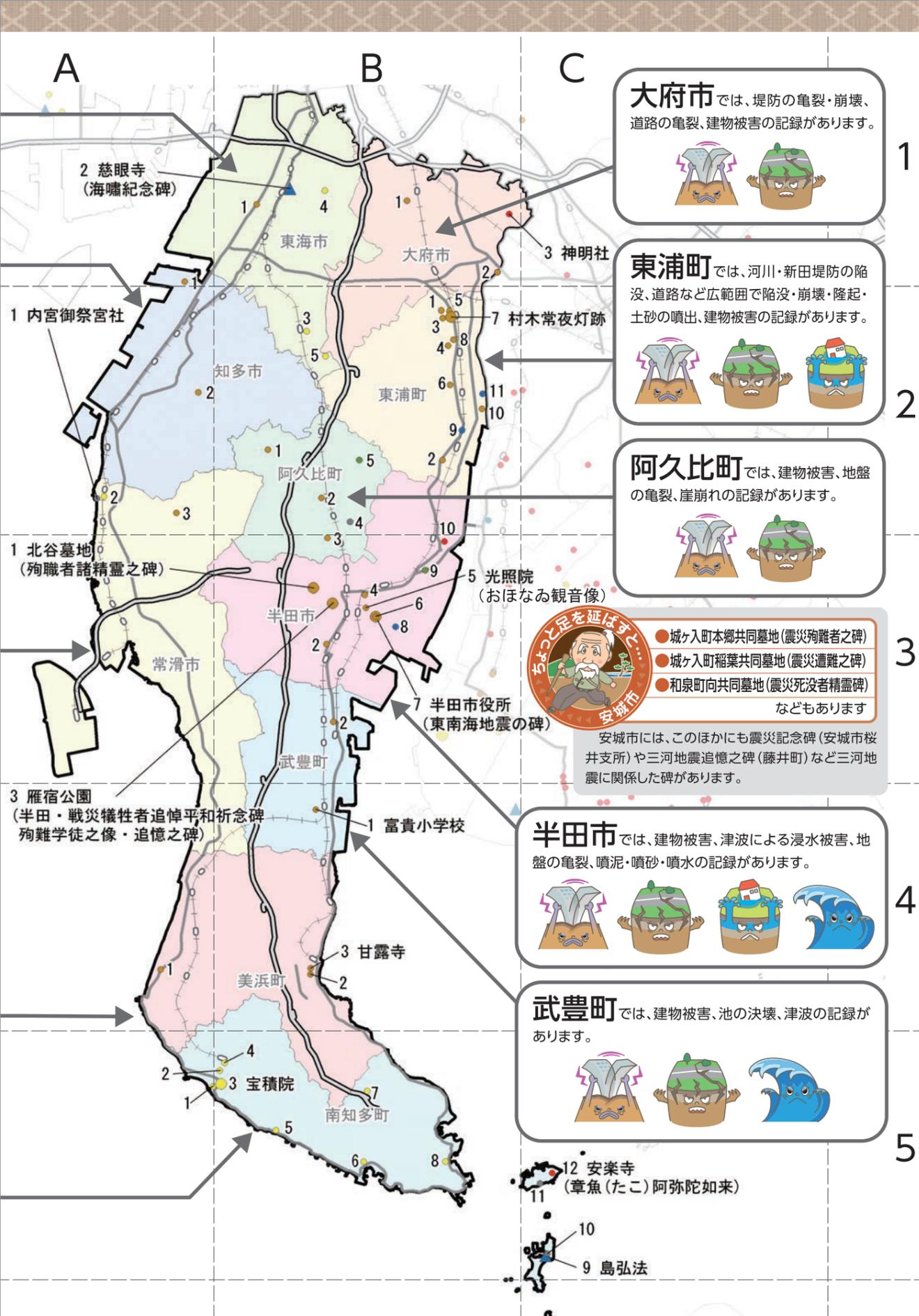


雁宿公園(追憶之碑)

所在地:半田市雁宿町
交通:名鉄河和線「知多半田」より北西 約800m

この碑は、昭和19年(1944)昭和東南海地震で亡くなった学徒動員の生徒達を追悼するために、昭和25年(1950)の七回忌に集まった同級生達が募金運動をして建立したものです。表面には「追憶之碑」とあり、裏面には半田中学・半田高女・半田商業と半田・乙川・亀崎・成岩の各国民学校の「震災殉難学徒」四十八人の慰霊のために同期生一同が建設するという趣旨の文が刻まれています。この碑の礎石には、中島飛行機山方工場の国旗掲揚台の組石が利用されました。なお、この碑は、昭和26年(1951)に光照院本堂横に設置されましたが、平成6年に雁宿公園の殉難学徒像の隣に移転されました。





1 大府市では、堤防の亀裂・崩壊、道路の亀裂、建物被害の記録があります。

2 東浦町では、河川・新田堤防の陥没、道路など広範囲で陥没・崩壊・隆起・土砂の噴出、建物被害の記録があります。

3 阿久比町では、建物被害、地盤の亀裂、崖崩れの記録があります。

3 半田市では、建物被害、津波による浸水被害、地盤の亀裂、噴泥・噴砂・噴水の記録があります。

4 武豊町では、建物被害、池の決壊、津波の記録があります。

5 南知多町では、建物被害、津波による浸水被害、地盤の亀裂、噴泥・噴砂・噴水の記録があります。

安城市には、このほかにも震災記念碑(安城市桜井支所)や三河地震追憶之碑(藤井町)など三河地震に関係した碑があります。



- 城ヶ入町本郷共同墓地(震災殉難者之碑)
- 城ヶ入町稲葉共同墓地(震災遭難之碑)
- 和泉町向共同墓地(震災死没者精霊碑)などもあります



ゆらすん



げんさい 減斎さん



エキジョー

こぼれ話

●雁宿公園にある「追憶之碑」は、当初、半田市内の**光照院**に建てられた際には、同時に、常滑焼の**おほなる観音**と呼ばれる十一面観音像もお寺に納められました。現在では、「追憶之碑」は雁宿公園に移っています。おおい観音像は光照院にありますが、市民の目に触れることがほとんどなくなっています。



ちょっといい話

●**中野(中埜)又左衛門さん**
半田、岩滑周辺では、嘉永7年(1854)安政東海・南海地震と津波、安政2年(1855)の大暴風雨で浸水被害を受け、米もとれず、生活にも困窮する状態となりました。半田の醸造家であった三代目**中野(中埜)又左衛門さん**は、資金を投入し、治水と海運の利便のために山方新田を切り開きました。また、村人の殖産のため、本邸を高台に移す大工事を安政2年(1855)から文久2年(1862)にかけて行い、地域の人の雇用を創出し、生活の糧の確保に尽力しました。

●関東大震災の際、この地域では・・・

大正12年(1923)の関東大震災の際には、知多郡各地では、個人のみならず町・仏教会・在郷軍人会・消防組・学校などそれぞれ組織を通じて義捐金ばかりか衣類・米・みそ・漬物など救援物資を関東地方へ送っています。なかには、学校で大震災の話聞いて、直ぐ自宅に帰り、自分の貯金全部を受持教師の所に持参し、東京地方の人々に送って下さいと申入れた小学生もありました。

参考情報



●半田市にある北谷墓地には、昭和34年(1959)の伊勢湾台風で亡くなった方々の鎮魂のために、「鎮魂碑」も建てられています。正面には「1959年伊勢湾台風犠牲者鎮魂碑」と刻まれています。この碑は、伊勢湾台風50年鎮魂の碑をつくる有志一同によって、平成22年1月に建立されました。北谷墓地には、このほかにも、半田市出身の児童文学作家新美南吉のお墓もあります。

●半田市には、明治から昭和にかけての地震、暴風雨に耐え抜いた小栗家本宅もあります。



先人の声を聞き活かしていくことが大切なじや

げんさい 減斎さん
昔の地震のことを、とても詳しく知っているおじいさん。

こんな言い伝えもあります

- 篠島・日間賀島周辺の暗礁は、貞観4年(862)の大地震によりできたと言われています【篠島地域の大地震】
- 嘉永7年(1854)安政東海地震の前日、日間賀島にある大安寺の阿弥陀様が血のような涙を流したので、何事が起こると思い、舟を出さないように触れ回り、様子を伺っていたところ、翌日大地震になり、島中の人が助かった、という言い伝えがあります。

防災・減災のための 一口メモ

- 地域の被災傾向を知って、地震に備えましょう。
- 地域の地名の由来を知って、災害危険箇所を掘っておきましょう。
- 先人の声(警鐘)に耳を傾けて、過去の地震の教訓を防災・減災行動に生かしましょう。
- 地震後の大雨、洪水、高潮などによって、複合災害が起きています。地震以外の災害にも注意しましょう。
- 現代の有益なサービス(緊急地震速報、地域のメールサービスなど)を利用して、落ち着いて行動しましょう。
- 地震の際の危険な箇所を知って、避難行動に生かしましょう。
- 被災時には、まずは自分の身は自分で守りましょう。被災後は地域の方々と協力しましょう。

関連情報

- 南知多では、「郷土研究誌みなみ」が発行されており、歴史地震記録を調べる際にも参考になります。(美浜町図書館、半田市立図書館などでご覧になれます)
- 地震の際の体験談がまとめられています。「地震体験記録集-関東大震災・東南海地震・三河地震-」(愛知県)「半田の戦争記録-半田市誌別巻-」(半田市)など「ばれいしょの青春~学徒動員日記四一八日~」(名古屋広報研究所)など(愛知県図書館、半田市立図書館などでご覧になれます)
- 愛知県では、県民の皆さまがインターネット上で簡単に大地震の際の自宅(木造)の様子の映像を観たり、地域の防災情報等を得たりすることができる「防災学習システム」を公開しています。<http://www.quake-learning.pref.aichi.jp>

この資料について この資料は、「地域に残る地震の記録」などを知っていただき、地震をより身近に感じていただくことを通じて、県民の皆さまが防災・減災を考えていただくきっかけになれば、との思いから作成されたものです。この資料を作成するにあたり、下記の方々のおかげで、ご協力・ご助言をいただきました。記して感謝の意を表します。

〈作成協力〉 [歴史地震記録に学ぶ防災・減災ガイド委員会] 委員長:武村 雅之 委員:加藤 規博 隈本 邦彦 栗田 暢之 近藤 ひろ子 佐藤 克彦 (敬称略) 鈴木 康弘 都築 充雄 服部 俊之 廣井 悠 福和 伸夫 溝口 常俊 護 雅史 山中 佳子(50音順で記載)

この地域の過去の地震・津波に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などを探しています。ご存知の情報を下記までお知らせください。

発行: 愛知県防災局防災危機管理課 TEL:052-954-6191 FAX:052-954-6911 E-mail:bosai@pref.aichi.lg.jp

災害を今に伝える史跡など

※この地図は、主に市町村誌や体験談等を参考に、地震に関する碑・史跡や、被害記録がある地点をプロットしたものです。

災害を今に伝える史跡など

常滑市、南知多町、美浜町、武豊町

常滑市の被災状況

常滑市では、元禄16年(1703)元禄の関東地震、嘉永7年(1845)安政東海・南海地震の際に、建物の倒壊や津波による流出の被害を受けています。安政東海・南海地震では、海辺の堤が切れて人家に押し込んだとあり、海岸堤防が決壊したことが伺えます。

宝永4年(1707)宝永地震、明治24年(1891)濃尾地震、昭和19年(1944)昭和東南海地震などでは、建物が多数倒壊しています。

「西浦町史」「大野町史」には、享保7年(1722)に、大雨後の津波により浸水被害が起きたことが記載されています。(地震の記録がないこと、この年に暴風雨があったことから、高潮があったものと思われます)。



内宮御祭宮社

地図 A2

所在地:常滑市大野町
交通:名鉄常滑線「大野町」より南西 約800m

内宮御祭宮社の由緒によると、往時の境内には諸殿が建ち並び荘厳であったが、文禄・慶長(1592~1614)の頃、波浪による浸食で境内を狭め、元禄16年(1703)の地震の時には津波によって境内が欠け没し社殿が東へ移されています。



その後の数度の災害によっても東へ移されています。

美浜町の被災状況

美浜町では、嘉永7年(1854)安政東海・南海地震の際には、河和・野間で田畑・家屋の被害が大きかったとされています。上野間では、建物被害のほか、ため池の決壊、猿尾堤の決壊があったことが記録に残っています(猿尾堤は、本堤の決壊を防ぐため、洪水の際の水流を遮り水勢を弱めるための堤防の一種)。

明治24年(1891)濃尾地震の際には、家屋・田畑・堤防等が破損し、相当な被害を受けたとされています。

昭和19年(1944)昭和東南海地震では、美浜地区でも被害が甚大であったこと、河和では住家の全壊が報告されています。また、「庭に亀裂が入り、地面が盛り上がり、立って歩くこともできず、屋根の土、壁の土が降り、村は砂煙に包まれた。冬季にもかかわらず庭に家財道具を持ち出し、むしろがけの仮小屋を設け生活していた人がいた」といった証言があります。

昭和20年(1945)三河地震では、昭和東南海地震に比べ被害は少なかったものの、河和で建物の全壊・半壊、野間でも建物全壊がありました。

甘露寺

地図 B4

所在地:知多郡美浜町河和北屋敷
交通:名鉄河和線「河和」より南 約700m

甘露寺は、聖徳太子彫刻の地藏菩薩が御本尊となっており、江戸時代には城主水野氏の祈願所とされていました。しかし明治初年の頃から殆ど無住となり荒廃しました。



昭和初期から再建がはじまり、昭和13年には庫裡の改築、書院の建立がありました。昭和19年(1944)昭和東南海地震によって本堂が被害を受けました。この本堂は、昭和24年に再興されています。

武豊町の被災状況



武豊町の被災状況

嘉永7年(1854)安政東海・南海地震では池の決壊が多く、武豊町の中心部である旧長尾村では家の倒壊があり、津波もあったとされています。

昭和19年(1944)昭和東南海地震では、住家・工場・学校の全壊・半壊があり、港湾施設に大きな被害が出ています。

昭和20年(1945)三河地震では、師崎街道沿いの二階建ての商店2,3軒が、一夜にして平屋になったとの証言があります。

富貴小学校

地図 B4

所在地:知多郡武豊町大字富貴
交通:名鉄河和線「富貴」より西 約600m



富貴小学校(旧富貴国民学校)では、昭和19年(1944)昭和東南海地震の際に、木造校舎が2棟倒壊しています。この際には、全職員で泊まり込みで警戒をしたとのこと。

南知多町の被災状況

嘉永7年(1854)安政東海・南海地震の際には、内海地区では家屋の全壊・半壊があり、輪中堤にも亀裂が生じ、1.2~1.5mの津波も押し寄せています。海に面した多くの家屋が流されました。これに懲りて海辺に住んでいた人たちは、高台や海辺から離れた奥に引っ越しています。乙方村(現在の豊丘地区)では、山や往来が割れて沈み、田が割れ泥を吹き出しています。片名村(現在の豊浜地区)では、津波によって家屋数が流れ、船が破損するなどの被害を受けています。

昭和19年(1944)昭和東南海地震の際には、家屋・工場・学校は全壊・半壊し、地面が割れたり、盛り上がったりにしています。

昭和20年(1945)三河地震でも、家屋の全壊・半壊がありました。

島弘法

地図 C5

所在地:南知多町篠島
交通:師崎港または河和港からフェリー



篠島地域には、貞観4年(862)頃の大地震で、この付近一帯に大きな地盤沈下がおこり、暗礁ができたという言い伝えがあります(篠島地域の大陥没)。このためか、海難事故が多く、明治末期には、慰霊と海上安全、大漁を願って、弘法様が島を囲むようにつくられました。山弘法とも呼ばれています。

宝積院

地図 B5

所在地:南知多町内海北向
交通:海っ子バス「大井戸」より東 約100m



嘉永7年(1854)の安政東海地震で、東端村内へ津波が押し入り、宝積院入口付近まで、津波が到達したことを記録した古文書が郷土研究誌に掲載されています。

安楽寺(章魚(たこ)阿弥陀如来)

地図 C5

所在地:知多郡南知多町日間賀島宇里中
交通:師崎港または河和港からフェリー



本堂手前のお堂に阿弥陀様が祀られています。この仏様は、大昔、日間賀島と佐久島との間の島が大地震により陥没し、ここにあった筑前寺の仏像の胎内仏が当時の漁師の網にかかって引き上げられたものと伝えられています。そのとき、1匹の大きな魚が仏様を守るように抱きついていたので「章魚(たこ)阿弥陀」と呼ばれています。

また、このお寺は、昭和20年(1945)三河地震の際に、本堂に大きな被害を受けて、大修理が行われています。

愛知県における主な被害地震と気象災害



時代	愛知県の主な被害地震(赤は地域での影響が大きかったもの)	主なできごとと気象災害等
奈良	和銅8年[壺亀元年] (715) 5月、三河・遠江に地震。三河東部では、正倉(穀物や財物を保管する倉庫)の破壊、民家の埋没等の被害あり。	(694)藤原京に遷都、(710)平城京に遷都 (729)長屋王の変、(740)藤原広嗣の乱(北九州)、恭仁京(京都)に遷都
平安	嘉保3年[永長元年] (1096) 11月、永長の東海地震。震源地は熊野灘沖。東海道沿岸では津波の被害あり。 保安5年[天治元年] (1124) 2月、尾張を震源とする地震。海東郡(海部地域)の碓目寺が地震で破壊。	(744)難波宮(大阪)に遷都、紫香楽宮(滋賀)に遷都→平城京(京都)に遷都→(794)平安京(京都)に遷都 (1083)後三年の役(〜1087) (1124)中尊寺金色堂建立 (1185)屋島の合戦、壇の浦の戦い
鎌倉	—	(1192)源頼朝、征夷大将軍になる
室町(南北朝)	—	(1333)鎌倉幕府滅亡、建武の新政
室町(戦国)	明応7年(1498) 6月、三河、強震。豊川の河流が変化。 明応7年(1498) 8月、明応の東海地震。東海道地方に激震。紀伊半島から房総半島で大津波により大災害。浜名湖が外海とつながり(今切)、安濃津が陥没し海になったといわれている。 永正7年(1510) 8月、尾張、三河に地震。定光寺(瀬戸市)で本堂大破。津波発生(高潮の可能性もある)。	(1467)応仁の乱おこる、(1493)明応の政変、(1497)大雨で豊川が大洪水 (1510)三浦の乱
安土・桃山	天正13年(1586) 11月、天正地震。近畿から東海道にかけて大地震。家屋の全半壊400戸、死傷者多数に及ぶ。真清田神社(一宮市)の楼門、回廊、社殿などが全半壊、岡崎城が破損。法性寺(あま市)なども倒壊。津島では大地震による田畑の陥没で約96ヘクタールが永荒地になる被害あり。長島城(桑名市)も倒壊。 文禄5年[慶長元年] (1596) 閏7月、慶長伊予地震、慶長豊後地震、慶長伏見地震。尾張で強震。津波発生。	(1582)本能寺の変、山崎の戦い、(1583)賤ヶ岳の戦い、(1584)小牧・長久手の戦い (1586)大雨で木曾川が大洪水。河道が変化。尾張・美濃の沿岸地域で大水害 (1590)豊臣秀吉が天下統一 (1592)文禄の役(〜1596)、(1597)慶長の役(〜1598)、(1600)関ヶ原の戦い
江戸	慶長9年(1605) 12月、慶長地震。房総沖と南海道沖に殆ど同時に大地震。津波は犬吠岬から九州に及び、各地で甚大な被害を受けた。片浜の舟も被害あり。 寛文2年(1662) 5月、寛文の近江・若狭地震。近畿・東海地方大地震。家屋、人畜の被害甚大。犬山城石垣破損。田原方面の民家、田畑、河川等の被害も大きかった模様。 寛文6年(1666) 4月、尾張・知多半島に津波が来襲し、新田を破壊。ただし、地震の記事がないため、地震津波か高潮かは不明。 寛文9年(1669) 6月、尾張で地震。名古屋城の石垣崩れる。 延宝5年(1677) 10月、延宝の房総沖地震。関東南部に地震があり、津波があった。震源は磐城沖。尾張にも津波があったといわれるが詳細不明。 貞享2年(1685) 3月、三河渥美郡に大地震があり、山崩れ、家屋倒壊あり。人畜多数が死亡。 貞享3年(1686) 8月、三河・遠江で強震。震源地は渥美半島の北東端、または遠州灘。田原では、田原城の櫓、武家屋敷、町家等が破損し、死者があった。 元禄16年(1703) 11月、元禄の関東地震。関東・東海地方に大地震。津波により、渥美では死者が多く、船、網等が流失。知多でも人家の倒壊、流失多数。 宝永4年(1707) 10月、宝永地震。津波、山崩れあり。人馬多数死亡。田畑に海水入る。町家、寺社、土蔵、堤防など破壊。橋が落ちる。地割れ、泥水噴出。	(1603)徳川家康、征夷大将軍となる (1605)大雨・洪水で尾張・三河ほかで被害 (1614)大坂冬の陣、(1615)大坂夏の陣 (1650)水害。大雨で木曾・長良・揖斐の三川が大出水し各所で破壊(大寅の洪水)、(1651)由井正雪の乱、 (1657)明暦の大火 (1664)水害。大雨で矢作川の堤防が挙母村で破壊 (1666)大雨で庄内川が大出水し、尾張各所の田畑が水害 (1674)暴風雨。木曾川の洪水で尾張・美濃大水害(小寅の洪水) (1678)暴風雨で洪水で尾張瀬戸内の田畑・堤防・家屋に被害
明治	享保3年(1718) 7月、信濃・三河・遠江・山城の諸国で強震。三河吉田(豊橋市)では、被害の出たところがあった。 享保16年(1731) 10月、大地震あり、荷之上、五之三村(弥富市)辺の田地から砂を吹く。刈谷で御城の塀が倒れる。 享和2年(1802) 10月、尾張で強震。名古屋城本町門の石垣崩壊。本町西の松が倒れ、高壁が崩れ、堀に落ち込む。海東郡(海部地域)では、地割れして砂を吹出す。 文政2年(1819) 6月、伊勢・美濃・近江・尾張に強い地震。震源地は近江・琵琶湖東岸。名古屋城の石垣がところどころ破損。城下ではところどころ土塀、築地が崩れ、寺院の門の倒れたものがあった。法花寺町常徳寺の門が崩れ、八事興正寺の塔損傷。石灯ろう・墓石の転倒回転したもの多い。葉栗郡(一宮市周辺)でも被害あり。	(1687)水害。大雨で庄内川が出水 (1701)大雨で庄内川・矢田川・天白川・矢作川ほかで出水し大水害。渥美では新田の堤防が破壊、(1702)暴風雨で佐屋川水系、天白川の堤防が破壊、 (1703)暴風雨で洪水。渥美の新田堤防が決壊 (1706)大雨で豊川がはんらん。庄内川の堤防が破壊、(1707)富士山噴火、 (1708)暴風雨で東三河の河川は出水。三河湾・伊勢湾で高潮 (1716)享保の改革はじまる(〜1745)、(1718)暴風雨で、渥美湾に高潮発生 (1722)暴風雨で尾張・三河は激甚災害。伊勢湾・渥美湾で高潮 (1731)暴風雨で矢作川堤防が挙母村で破壊、(1732)享保の大飢饉 (1767)大雨で矢田川が破堤し、流路が変化(近年の洪水) (1782)天明の大飢饉(〜1787)、(1795)暴風雨で矢作川が出水(合歡の木切れ)、(1801)大雨で菅生川・青木川・矢作川の堤防決壊 (1802)暴風雨。伊勢湾沿岸で高潮。岡崎・額田で水害。三河吉田でも被害 (1819)名古屋とその周辺に連日雷雨。落雷によって各地に火災発生、 (1825)異国船打払令を発す (1821・1822)大雨で矢作川が出水。挙母村で破壊、(1823)大雨で矢作川が出水、(1833)天保の大飢饉 (1853)ペリー浦賀に来る (1852)大雨で矢作川が出水。額田郡・幡豆郡で破壊(天白切れ)、(1853)大雨で庄内川が出水。東春日井郡で破壊 (1854)日米和親条約締結。大雨で庄内川が出水。東春日井郡で破壊 (1855)暴風雨で尾張・三河で洪水。庄内川・矢田川・新川・天白川・大高川・矢作川の堤防が決壊はんらん。河和では古布小谷の川が破壊。海西部では新田が破壊。矢作川下流の新田でも破壊。伊勢湾・渥美湾で高潮。沿岸の新田堤防や海岸堤防が決壊。下田で日米和親条約批准 (1856)大雨で庄内川が出水。東春日井郡で破壊 (1857)大雨で豊川・庄内川が出水 (1858)日米修好通商条約調印。安政の大獄(〜1859)、(1860)桜田門外の変、(1862)坂下門外の変
大正	明治24年(1891) 10月、濃尾地震。震源地は揖斐川上流域。東海・北陸・近畿地方東部、特に美濃西部から尾張北西部にかけて記録的な大被害。家屋の倒壊、死傷者多数。山崩れ、陥没、地割れ、噴砂等の地変が多く見られた。	(1868)丹羽郡入鹿地堤防の決壊(明治元年の入鹿切れ)、(1882)菅生川(乙川)の決壊はんらん(三島切れ)、(1890)エルトゥールル号事件、 (1891)暴風雨で乙川・巴川の橋が流失・山くずれなど多数。矢田川などで堤防破損、(1891-1892)尾張で大雪、(1894)日清戦争はじまる
昭和	大正12年(1923) 9月、関東地震。震源地は相模湾辺り。東京を中心に関東地方南部に大被害。壁が落ちた家、非住家の倒壊、煙突の倒壊、石碑・灯籠等の倒壊が、豊橋、新城、瀬戸、岩倉、刈谷等であり。 昭和19年(1944) 12月、東南海地震。津波あり。被害は静岡・愛知・岐阜・三重で多かった。死傷者、家屋の全半壊、流失多数。沖積地・埋立地で被害大。地割れ、土砂と水の噴出、不等沈下あり。道路や橋、地下埋設管の被害もあり。堤防の損壊、海岸堤防の崩壊あり。井戸に汚濁、水位変化もあり。 昭和20年(1945) 1月、三河地震。震源地は渥美湾。矢作川下流域の幡豆(西尾市)・碧海郡(西三河地域 西部)方面を中心に大被害が集中。死者、住家全壊多数。土地の隆起・沈降、小津波もあり。 昭和21年(1946) 12月、南海地震。震源地は紀伊半島沖。津波あり。被害は中部地方から九州にまで及び。死傷者、家屋の全半壊、流失、焼失多数。	(1923)知多郡・東春日井郡でたつまき。台風による暴風雨。名古屋港で船の流失。堀川・新堀川で木材の流失、熱田で家屋浸水、愛知郡で山くずれ (1934)室戸台風、(1941)太平洋戦争はじまる(〜1945) (1945)原爆投下・ボツダム宣言受諾、枕崎台風、阿久根台風などにより、家屋倒壊、堤防決壊、浸水被害。尾張部で大積雪 (1947)カスリーン台風ほかで浸水被害、(1950)ジェーン台風、(1954)洞爺丸台風、(1958)狩野川台風、(1959)伊勢湾台風